

# 2023(R5)年度 講師派遣のご案内

各地の人権研修等に講師を派遣いたします

## 研修スタイル

	研修スタイル	人数	対象	時間	条件	オプション
1	<b>講演</b> ・講師の話を聴いて学ぶ研修。 ・話し合い活動や演習を盛り込むことも可能。	制限なし	誰でも	30～120分	講師交通費の負担 ※謝金は必要ありません	研修効果を引き上げる「3ステップ研修」※
2	<b>ワークショップ</b> ・意見交換や作業協力を通して共に学び合う研修。 ▶体験的参加型学習	6～40人		90～180分		
3	<b>ふらっとカフェ</b> ・少人数で1つのテーマについてゆっくりじっくり対話し、学び深める研修。 ▶対話型人権学習	4～8人		90～120分		
4	<b>ゼミナール</b> ・人権問題の深い理解に役立つ理論等や啓発の基本技術を知り、その活かし方を探る「情報提供+討議」型の研修。	3～20人	人権啓発に携わっている人、人権に関心の高い人	120～180分	講師交通費の負担なし	

### ※3ステップ研修

- ・「打合せ」⇒「研修」⇒「ふりかえり」の3ステップで進め、研修で学んだことの定着や発展をめざします。
- ・参加者が同じ職場・地域・団体などに属している場合におすすめです。

## 留意点

- 開催日時、依頼内容等によっては、お引き受けできない場合もございます。予めご了承ください。裏面に研修テーマ例を掲げていますが、ここに記載されていないテーマについてもご相談ください。
- 講師派遣の内諾後、講師派遣依頼文書を作成しご提出ください。必要であれば依頼文書の「ひな形」をお渡しします。
- 研修で使用するレジュメや資料等の印刷、研修に必要な機器や備品の準備をお願いします。
- 研修記録（撮影動画、配付資料等）の無断流用は堅くお断りします。また、研修の動画撮影や、配付資料等の当該研修以外への利用をお考えの場合は、当センターに予めご相談ください（研修当日のお申し出はお断りすることがあります）。

裏面に研修テーマ例を掲載しています

## 研修テーマ例

### 1 講演 / 2 ワークショップ(WS) 開催者と協議して決定します。

近年行ったテーマ例	講演	WS
私たちの暮らしと人権 (人権一般)	○	○
災害から学ぶ人権 (災害と人権)	○	
人権尊重のコミュニケーション (コミュニケーション)	○	
決めつけとジェンダー問題 (女性・ジェンダー)	○	
多様な性について考える (性的マイノリティ)	○	
超高齢社会の人権尊重 (高齢者・社会)	○	
新型コロナウイルスと人権問題 (感染症・コロナ)	○	
共に生きる社会をめざして (外国人の人権)	○	
インターネット (SNS) と人権 (インターネット)	○	
今後の部落問題学習をどう展開するか (部落差別問題)	○	
ハラスメントと人権 (労働者の人権)	○	○
マジョリティ特権 (人権一般)	○	
子どもの自尊感情を高めるためには (子ども)		○
差別偏見につながる『うわさ』のしくみ (バイアス)		○
障がいと人権 (障がいのある人の人権)	○	○
アイヌの人々の人権 (アイヌの人々)	○	

### 3 ふらっとカフェ ※ テーマは、開催者と協議して決定します。

#### 過去に取り上げたテーマ例

- ❖ 「差別とは何か？」 ❖ 「笑いと差別の境界線」 ❖ 「女子力とは？」
- ❖ 「仲間とは？」 ❖ 「不安」 ❖ 「部落問題が自分ごとになるとは？」
- ❖ 「私らしさ!？」 ❖ 「人の肩書きが与える影響は？」 ❖ 「傍観者って誰だ？」

### 4 ゼミナール 以下の中からお選びください。

選択テーマ	
①	改めて、人権って何だろう？ -憲法と世界人権宣言を中心に-
②	人権問題はなぜ起こる？ -社会的多数者/少数者の関係から見てみよう-
③	フツーの人が無意識に行う日常的な差別とは？ -マイクロアグレッション-
④	取扱注意のココロのしくみ -差別にかり立てる社会心理とバイアスあれこれ-
⑤	自他を大切にするコミュニケーション-アサーション (非攻撃的自己表現) -
⑥	ようこそ“ふらっとカフェ”へ！ -ゆるくて深い対話型人権学習の可能性- [実践]
⑦	自らを問う部落問題学習 -innovation を活用した学びのすすめ方-
⑧	バイアス、ミナオス？ -事業企画編-

※①～⑤は、「講演」として実施することも可能です。

#### 申込み・お問合せ先

公益社団法人鳥取県人権文化センター (担当 中尾/尾崎)  
 電話) 0857-21-1712 E-mail) t-jinken@tottori-jinken.org